

第69回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 番組部門 審査結果および講評

■ラジオドキュメント部門

審査順	学校名	作品名	結果	橋爪主審講評	審査講評
1	金光大阪	空想トラベル	4位	テーマの着眼点は〇。ゲームという”陽”の部分と、ウツという”陰”の二つを”現実逃避”という共通のポイントでつなげたのもgood。マジメさが伝わった。ただ、”空想トラベル”のタイトルからは少しズレてしまった印象。もっと攻めてもよかったかなど。	現実逃避というテーマでコロナ禍という現実をふまえ、その対処法、メリット・デメリットを分析している。効果音、雑？テーマがおもしろい。音量の調整に気をつけて（人の違い、BGM）。作品名と内容にズレがあるのでは？音のバランス注意。レポートを発表しているみたいな構成。ドキュメントは、ナレーション（制作側）が語るのではなく、もっと「素材に語らせる」構成にしよう。現実逃避・・・伝えたいことはよくわかりますが、内容の構成と上手くつながっていません。構成を再考してみてください。音はよく聞きやすい。売り上げ6.6兆円、うつ病127.6万人について、大きい小さいイメージわかない。比べるものがないと・・・。現実逃避→依存、という流れが少し弱い。ラストにまとめた3つのポイントの根拠は？高校生が共感しやすいテーマに注目していて、関心ももちやすい。「現実逃避→ストレスとの向き合い方→うつ病→自殺」という流れを丁寧にこなごなとしているが、ナレーションのみでドキュメントとして説得力に欠ける。
2	四天	未来の答えは・・・?	3位	教頭先生のインタビューの後の雑音が残念。でも、あえて高校内の小さな世界の話に絞ったのはよかった。その一方で、インタの人の”顔”がもう少し見えると良いかなとペーパーレスを最初に掲げつつも、ラストで否定する形に聞こえたのは少し残念。多角的なvisionがほしい。	紙の使用について。PC1人1台を持たせてもペーパーレスにつながっていない(?)。R2より以前のデータもほしかった。生徒からこのテーマで制作しているのがよい。コロナ禍前との比較があってもよいのでは？少し音がかもっている？教頭インタビューにノイズがあるのは気になる。テーマはペーパーレス？最初から示してほしい。結論も弱い。(着眼点は悪くない。)全校的にパソコンが導入される中で、紙との比較について取材しているのはとても興味深く面白い！生徒の思い、生の声をもっとたくさんあればよかった。教員へのインタなど、丁寧にできている。テーマとして取り上げたことは時代にもマッチして◎。R2、R3はコロナ禍なのでDATAとしては使いにくい。それ以前のDATAも知りたい。ラストの結論に持っていくための流れが少し弱い。教育活動におけるペーパーレス化に注目し、時事性のある社会的課題を探究している。校内での取材の努力がうかがえる。ただ全体として、ペーパーレス化とデジタル化を混同しているように見受けられる。
3	箕面自由	未来の私たちに告げる	1位	おおきなテーマが「学校」という小さなコミュニティの中にも影響を及ぼしている展開がとてもよかった。音楽の使い方もすばらしい。完全に塩川先生が主人公なので、登場がもう少し早くてもよかったかも。最後のまとめも、先生目線にしても良かった。	ウクライナ侵攻→米ソ冷戦 平和行脚→途絶えた活動→教員としても活動(ここをもっと充実させてもよかったか。BGM効果的。BGMが効果的に使えている。一人のインタビューが長いのでは？ 返事は入れないようにしましょう。BGMの使い方はよい。「ある人物」ではなく、はじめから「ローマ法王」と言ってくれた方が親切。取材はよくできているが、それらをまとめて提示する構成がやや散漫で伝わりにくくなっている。導入部、なぜこのテーマを取り上げようと思ったのかの動機がほしい。今の自分たちとのつながりは何なのか？シオカワ先生の人物像をテーマ(中心)にすればよかった。今の「とき」にマッチしたテーマを取り上げ、深く知ろうと、広く取材を行いまとめた本格的ドキュメント。わかりやすい構成。ナレーション一文一文が長めで濃い内容が多いので、ゆっくりめに読むか、間を広くとるか長さを短くするかでないと理解が追いつかない。一つ一つのインタの長さや、アナウンスでつないだ構成は見事。ウクライナの問題を切り口に、自校の先生がかつて取り組んだ平和活動に迫る意欲作。作品のタイトルは作品の何を象徴しているのか、先生の平和を解く活動なのか、その思いを高校生が受け継ぐことなのか。
4	相愛	つなぐ、オルガニスト	2位	”オルガン”とともに学校の歴史を紐解く視点はgood。ナレーションがちょっと多く、早すぎるので、少し窮屈な印象。オルガンデビューの日がどんな状況で弾いたのか伝わりにくい。途中で少し転調があればよかった。	ナレーションが平坦。フジイ先生への特別レッスン。インタビュー長すぎ？音楽ネタなのでラジオ向き〇。ただ見たくなりました。最初のインタビューの使い方がもったいない。終わり方にもう一工夫ほしいところ。終わり方にもう一工夫ほしいところ。終わり方にもう一工夫ほしいところ。ラジオの素材として適切。インタの素材として適切。インタの素材として適切。着眼点は良いが、オルガン奏者の話で終わってしまったところが残念。パイプオルガン・・・ラジオとして、いい素材を選んでいきます。オルガニストの引継ぎの様子がよく伝わってきます。音(BGM)の使い方もいいです。シンプルですが、とてもいい作品でした。リスナーの聞きたいと思うことが次のインタで出てくるという、見事な構成で番組に引き込まれていく。できれば(行事などで)実際にパイプオルガンが演奏されているシーンが聞きたかった。自校のパイプオルガンとその演奏を受け継ぐ先生方の思いに迫る良作。パイプオルガンを実際に試し弾きしているシーン以外はラジオ向きの素材で、丁寧に取材したものを上手く組み立ててまとめている。(予選時にあった冒頭の「仏教徒なのにパイプオルガン？」が聞けなくて残念)

第69回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 番組部門 審査結果および講評

■創作ラジオドラマ部門

審査順	学校名	作品名	結果	橋爪主審講評	審査講評
1	府箕面	リングアップ・リンク	1位	最初に音楽をつけるともっとよくなる。展開が唐突なので、もう少し丁寧に主人公の感情の流れが描けるとよい。生活音をつけると状況描写がわかりやすくなる。セリフに頼りすぎ。実はおばあちゃんも…という転調はよいので、もう少し頑張れる！	意外な展開（オレオレ詐欺→電話相談）、ラジオ向きの素材。時代の反映もあって、うまくまとまった。欲を言えば、タイトの段階で、電話相談につながるエピソードがあれば（おばあちゃんとの会話のおかげで前向きになった流れとか）。音の使い方がうまい。演技もいい。おばあちゃんがとてもいい。正体を告白するのは、彼の方が自然でしょう。ありがたりますが、その方がいい。ストーリーはもう工夫欲しかった。悪事をはたらいてそれが意外なストーリーと人間模様を生む面白い展開。電話、カラスなどのSEは本当に必要かどうか見直してみても？冒頭のニュース音声の差し込み方も工夫欲しい。ストーリー展開としては面白い。奨学金をもらって大学に行ったのだらうと思うが、その間が不明確。導入は突然すぎるが、展開はおもしろい。ニュースの“オレオレ”が重なって少し聞きづらい。予想と違う展開が面白く、世界に引き込まれた。最初のキャストの音声レベル、ちょっと小さかった。テーマつなぐ部分、もう少し強く描いてもいいかな。
2	府今宮工	心の花	入選	最初のツカミはOK。ただ、そのあとの会話が冗長なので世界観に入りにくい。“依存”の言葉に頼りすぎている。登場人物それぞれ、誰が今喋っているのがわかりにくい。曲の使い方はOK。“間”を上手く使うともっとよくなる。もっとバスケを感じたい！	女の子の声の区別が難しいので、話の全体像（誰と誰の依存とか、1年たったとか）がわかりにくい。時系列が少しわかりにくい。声が似ているので、人物の違いがよくわからない。結局、何を伝えたかったのか？タイトル「心の花」という意味ですか？高校生の人間模様を描いた作品。BGM、SEなど効果的に使われている。登場人物の声の違いがわかりにくく、中盤、話の展開を見失ってしまう。BGM工夫されている。配役がわかりにくい。マミ役、思いが伝わる演技。声しかないのに、女子の区別がわかりづらい。最後のまとまり方をするのなら、導入が不自然？登場人物の関係を理解するのに、ちょっと時間がかかった（声もしゃべり方も似ている）。主人公の心境の変化のきっかけになったことが弱い。BGMがセリフの邪魔をしています。
3	堺リベ	みつごのカタチ	3位	頭の入り方はOK。間をもう少しつけて歯切れよくするとよくなる。ただ、そのあとのテーマが伝わりにくく話が入ってきづらい。ユリの存在が家族にどのような影響があるのか、もっと早めに提示して“夢のような1日”をメインに描くのもあり（さりげなく）。	「パニックになって…」のナレーションは要らないと思う。ややこしい設定や場面、夢はラジオドラマに向いていない。似たような声の人物なのもわかりにくくなっている。演技上手い。テンポよく引き込まれます。音の使い方もいい。ストーリーは面白いですが、もう工夫欲しいです。姉妹の病的危機をめぐる家族の不思議体験の物語。登場人物が多く、ストーリーの展開を見失ってしまう。出生後すぐに亡くなった命の扱い方に疑問（簡単に登場し、都合よく消える）。複雑な関係をわかりやすく表現できていた。ラストシーンは印象的。ラジオドラマ表現するのが難しい題材選び。急に話をまとめたように感じました。ドラマの世界に引き込まれて聞いていました。もう少しだけ「間」があれば安心して聞くことができます。伝えたいこと、テーマへの結びつきが弱い。
4	箕面自由	アワズプラネット	入選	ラジオならではの世界観としてSFテイストを入れたのはgood。入口がよかっただけに、そのあと少し何を描きたいのか散漫になったのが少し残念。音楽の選定が素晴らしい。もう少し2人が仲良くなる過程がドラマティックに丁寧だとさらによくなる。	わかりにくい設定なので、わからないままでラジオドラマを聞くのは入り込めない（映像があれば補えるが…）。「アワズ」とは？？バーチャルゲームの世界？何を伝えたいのでしょうか？架空の世界観で展開されるストーリー。AI？人工知能？と人間の心との間で生まれる物語を作ろうとする努力はうかがえる。ただ、画がない上に想像しにくい世界観のドラマでわかりにくさが残る。未来感満載。効果音が仮想空間を演出していた。セナが「夢中になれること」って、何か？ラーエのその後は？機械（ロボット、アンドロイド）的な表現は、もっと工夫があってもよいのでは？先の展開が、ヴァーチャルなのに読めてしまいました。伏線などをよく考えて作られたドラマ。近未来のSFチックな世界観に引き込まれた。最後の展開がちょっとサラッとすげえかな。
5	府今宮工	自分	2位	テーマが意外と古いので、もう少し新しい点欲しい。最初に女性が喋っていたので、女性が主人公かと思いきや、男たちのゲイの話になるのはよいが、告白シーンでもう少し芝居の熱量の強弱をつけられるとよくなる。女の子の芝居が上手い。	声の区別が難しい。場面や時間、大きな転換もラジオドラマには向かない。難しいテーマに挑戦したことは評価できるが、“自殺”という設定も扱いが難しい。シリアスなテーマを真正面から扱って好感が持てました。ただ、登場人物の語りだけでなく、ドラマメッセージを伝えられたらと思いました。性の多様性をテーマにした意欲作。本当の自分と周囲の反応との間で苦しむ性的マイノリティの心理的な一面を描けている。これは校内で具体的に取材をし、それをドラマに反映させているのか。難しいテーマを扱ったが、高校生の身で向き合っている姿が素晴らしいと思いました。最後のシーンがポンッと出てきているように思いました。このシーンに至る葛藤なども強いはず。性的マイノリティをドラマとして取り上げたことは◎。登場人物を声だけでなく、もうちょっとしっかりと区別できればいいな。伝えたいこと、テーマへの結びつきもGood。

第69回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 番組部門 審査結果および講評

■テレビドキュメント部門

審査順	学校名	作品名	結果	橋爪主審講評	審査講評
1	箕面自由	現実を見つめて	4位	早く歌を聴きたくなる。友人に諦めることを言いに行くのがヤマ場の一つなのに撮れていないのはもたない。ライブハウスの話の後、すでに答えていることがリピートしているのが尺的にもたない。もっといろいろな要素を詰め込むともっと良くなる。画がわりしないのも勿体ない。インタの声と歌声のレベルも合わせるとよくなる。行動のライブの映像をもっと見たかった。	インタビューをうまくつないでいた。伝えたいことは何? 「夢をあきらめた」ということはわかった。インタビューのQが分かりやすいように工夫を(色やSE)。インタビューから演奏シーンへの重なり音量バランスがもたないなく内容が伝わりにくくなっている。テーマとして、早い段階で声やギター音がほしい。共感が得にくい。これならむしろ、ラジオの方が締まった構成になったかも(絵がなくていい)。TVドキュメントである意味は? 何を伝えたいのか? もっと取材をしてほしい。(Telopのフォント、はじめだけ太さが違うように感じた。) りんたろうさんの音楽に対する思いはよくわかった。それ以外の、例えば授業とか家とかの姿をもっと取材して「人となり」を見せてほしいなと思った。自校生徒の、音楽での夢を追うこと、現実的な生き方を模索することの間で揺れ動く姿に迫る作品。多くの高校生が自身の進路について、理想と現実の狭間で悩むことから共感を得られるはず。
2	いちりつ	ナゾの銅板	2位	”探す”というミステリー系なので、探すひとをONにした方がよい。同じ目線を追えるから。音楽をつけるともっと良くなる。”いい話”を聞いている高校生のカオも見たくなる。テーマは地域の人も入っている感じがよい。レポート番組を見ている感じ。同じ画を何度も使っているのは気になるが・・・。	メッセージ性高い。身近にあって忘れられていたものを復活させたところまで上手くまとめていた。とてもしっかり取材されています。テロップも読みやすく工夫されています。着眼点はよい。文字テロップ、多すぎると思います。アートそのものをもっとしっかり見せてほしい。OBよりも現役高校生の声を聞きたい。ナゾの銅板!? 面白い! よく取材しています。構成もよい。現役高校生の取材や声を入れてほしい。校舎のナゾについて、知りたいと思うことを丁寧に取材され、わかりやすい展開になっている。光の当たり方によって表情が違うというのも見たい。自校内にある芸術作品の謎を解明していく努力作。様々な方面への取材を積み重ね、それらを丁寧につないで上手くまとめている。一部、音割れや音量の差が気になるので、修整に期待したい。
3	相愛	久保さんとの新たな高校生活	1位	ナレーションの音が大きすぎる。インタビューの声が埋もれてもたない。アプリの話は解説を後にいれるなら、その前に見せるのはもたない。主人公の久保さんが自然と輪の中央にいる人間関係が作れているのが、すごく良かった。歌の話など展開するのはOK。	聴覚障がい生徒が支援学校ではなく高校へ進学してなじむまでのドキュメンタリー。とてもしっかり取材されています。高校生、クラスメイトだからこそ制作できた作品だと思います。着眼点がとても良い。テレビ向きの素材。合唱の使い方もすばらしい。人と人とのつながり、クラスの生徒たちが成長していく姿。自然な日常生活を通してメッセージを伝えています。感動しました。構成もよいです。丁寧な取材と編集で、久保さんとその周りの成長を生き生きと描いた素晴らしいドキュメント。ノーマライゼーションの思いがとてもよく伝わった。障がいがある自校生徒が、コロナ対策をとる学校で、周囲の生徒の協力を得ながら困難を乗り越えていくヒューマンドキュメンタリー。心あたまる人間ドラマ。何度見ても久保さんのお父さんはインパクト強い。
4	四天東	成田先生はすぐ休む!!	3位	タイトルが秀逸。ツカミとして素晴らしい。他の職業に振るのも良かった。わかりやすい。今ドキのテーマ。成田先生が実際にどう思われているのか、もうちょっと見たいと思ったが、大きなテーマを学校という小さな社会に上手く落とし込んでいるのは素晴らしい。	大人の社会(身近な学校の教員)を高校生の視点で切り取っていた。着眼点が良い。一人の先生から制度をよく取材できていました。一部乱れ? 成田先生はどのくらい(他の先生と比べて)よく休むのか、データ的なものを示してほしい。最近の社会状況に目を向けたことは良いが、もっと高校生の目線や声を取り入れてほしい。有給について、生徒はどう思うのかも取材してほしい。よく取材をしています。ただ、もう少し、自分たちとの関係をつきつめてほしい。現在の教員の問題を生徒側から描いたのは◎。先生の実際の有休取得の現状が知りたいです。他の業種と比べても面白いと思います。ちょっと特徴的な行動をとる自校の先生について注目しながら、学校という職場における教員の働き方と有給休暇の制度を探究する勇氣ある作品。インタビューのシーンで少し間延びするのが残念。

第69回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 番組部門 審査結果および講評

■創作テレビドラマ部門

審査順	学校名	作品名	結果	橋爪主審講評	審査講評
1	関西大倉	不破心わ物語	入選	導入がつかみにくいので、何の話かわかりにくいまま話が進むのがもったいない。顔のUPの映像が多かったが、広めの映像とコントラストをつけて使えばもっとよくなる。主人公がどちらなのかわかりにくいので、カメラワークをもう少し!間がなく窮屈。	今を生きることの大切さを伝えようというメッセージ性あり。マスク越しのせいか、セリフがよく伝わらないところがあった。声の入り方が不自然。変な無音も。作品名の付け方にも工夫を。先生に見える工夫をしよう。カットの切り替えが不自然なところがある。音割れ、アフレコのずれ、気になる。→環境音を足そう主人公、死相のこと忘れてる?逆光。死の予言という設定はどうなのでしょう。登場人物はそれぞれ魅力的ですが、ストーリーは現実離れしています。カットが繋がらないカメラワークがいくつかあります。カット割で流れを考えてから撮影しましょう。学園ファンタジーの王道。登場人物それぞれのキャラがはっきりしていてわかりやすい。セリフはアテレコ形式なのに、マスク撮影のためやむを得なかったのだろうが、もう少し音質がそろるようにしてみよう。
2	箕面自由	伝えたい気持ち	2位	テーマがちょっと使い古されているが、切ない感じは伝わった。ただ、時々あさひくんが主役に見える構図なのももったいなかった。しゃべっている人を撮るからだと思うが、テーマ的には聞いている裕に寄り添うべき。いろいろアクションをつけているのはよかった。	BL→性的マイノリティー 難しいテーマに挑戦している。テーマの選び方はよい。一部に映像の乱れがあった。せっかくの最後かばうセリフがBGMで聞きづらい。モノローグがなくても画で伝えられる。映像ノイズあり。難しいテーマに挑戦したが…。ストーリーにもう少し工夫が欲しい。テーマは分かりますが…。性的マイノリティーについて、真剣に考えよう作品づくりをしたことが伝わってくる。技術的にも◎ 黒マスクにしたのはgoodだが、顔が暗くなったのが残念。性的マイノリティーの心情を描く意欲作。難しいテーマを登場人物をしばって、わかりやすいストーリー展開で上手くできている。欲を言えば、「ゲイ」というワードは使わず「そちら側」という表現を批判的に描いてみては?
3	浪速	拝啓 おばあちゃんへ	入選	主人公がはっきりしていて、前半はすぐく見やすかった。中盤以降話が散らかってて、よくわからなかったのが惜しい。おばあちゃんがよくわからなかった。カメラをもう少し引ききみに撮るともっとよくなる。	前半リズムがあって面白かった。能力が主人公の人間形成とどんな関係があるのかが、不明だった。超能力と放送部との関係が分からず、内容に入り込めませんでした。つかみはよい。超能力世界の描写が少なく、主人公の能力のショボさがわかりにくい。朗読のシーンもっと多く、拍手もっと盛大に。ノイズが大きくてラストが聞き取れなかった。映像面白い。カメラワーク上手いですね。ただ、話の流れがよく分かりません。超能力は、いったい何だったのでしょうか。セリフが聞きづらいところがあります。できるだけ外部マイクを使うか、ICレコーダーで別録りしましょう。結局、「ヤエコ」パワーはどうなってしまったのですか?不思議な能力をめぐる学園ドラマ。コメディなのか、友情物語なのか、部活動のストーリーなのか、はっきりしないのが残念。欲張りすぎたか?コメディに特化して再構成するともっと面白くなるはず。
4	府旭	推しすぎて、	1位	テーマから物語の流れが読みやすいのはちと残念。“推す”ということの肯定的な目線があるとよりよくなるかなと思った。主人公のみずみずしさはgood カメラと被写体の距離、構図の取り方を一工夫すれば劇的によくなる。	セリフがよく聞き取れた。メッセージ性あり。展開が読めてしまうところはありましたが、“推し”をうまく表現していました。妄想の中でくらいマスクを外せばいいのに。友だちはなぜ、ノーマスク?スマホ画面、日付が見にくいのが残念。ヘッドフォン越しのラジオの音は、それっぽく加工して欲しい。印象的な画がインサートされていたのはよい。逆光が気になる。高校生のありのまま(?)の姿を描いていて好感が持てます。カメラワークも工夫していいですね。画の持つ力を最大限に活用し(ロケ地、夕陽、マスクの有無など)、伝えたいことを伝えようとしている工夫を感じる。自己解決したのは◎。「推し」という最近使われているワードをもとに、リアルな高校生同士の友情のかけがえのなさを描く王道のストーリー。「推し」の拘束から解かれた主人公のことをマスクなしで表現しているところがよい。